

モンゴル詩研究における詩人、詩、朗読者の三つの関係

ゴンボスレン・ガルバヤル
モンゴル国立大学総合科学部文学芸術学科教授

モンゴル詩研究においては解決すべき多くの問題があるが、その内の一つが、詩人－韻文家（шүлэгч-яруу найрагч）、詩－韻文（шүлэг-яруу найраг）、朗読者－聴取者（уншигч-сонсогч）という語群の関係、さらにそれらの語群によって表される統一的な概念と意味の問題である。私たちにとって、モンゴル詩研究においては、詩人－韻文家、詩－韻文、朗読者－聴取者という語群の関係とその表す意味を、語群間の相互関係と包摂関係において抽出し、詩、詩人、朗読者という語群が、文学の基本的な三つのジャンルの一つである詩的作品（шүлэглэсэн зохиол）の根源的な意味と本質を表していると思われ、これらの語群の関係を特別に取り上げて見れば、モンゴル詩研究のいくつかの根本的な問題が明らかになる可能性があると思われる。文学の基本的な三つのジャンルの中で、詩的作品こそ、人類の芸術思潮理論の基本的概念と原初の本質をより良く、かつ明確に保持している。その意味において、詩的作品の理論的思潮と創作表現の体系は、きわめて大きな意義を持っている。

詩人；歴史的に見ると、芸術家個人の才能と芸術創作の本質を重視していた時代（古代のギリシア、ローマ、インドなど）では、詩人とは何者なのか？ 詩人はどのようにして生まれるのか？ 詩人は何ゆえ詩を書くのか？ など多くの問題が、当該の詩人に運命づけられた本性と関連づけて取り上げられてきたが、社会的思潮が強くなり、あらゆる問題が社会的思潮の観点から取り上げられるようになった時代（18-20世紀の旧ソ連などの諸国）では、詩人個人が社会的思潮と時代に強く関連づけて取り上げられるようになってきた。詩人個人の特性を重視するのか、その一方で、社会的な特性を重視するのか、いずれにしても、詩を書く詩人を凡人とはまったく異なる存在であるということを経験していたのは、詩人の持つ原初的な本質と才能の問題を特別に取り上げて見るべきだということを表している。それゆえ、モンゴル詩研究において、「詩人とは何者なのか？」という問題をめぐって、統一的な正しい認識を持つようになることが正当なのである。

詩；非凡な才能を完璧に備えた者、すなわち詩人が著述した詩とは何か？ 詩はどのような基本的特性を保持しているのか？ 詩はどのような構造と体系を持っているのか？ さらに詩の構造と体系は当該の詩人を生んだ民族の普遍的思潮とどのような関係にあるのか？ などの研究すべき問題がある。モンゴル詩をこのような視点から研究すれば、モンゴル詩の一般的な体系が明らかになるだけでなく、モンゴル人の芸術思潮の特徴もいくつかの点で正しく理解されるであろう。

朗読者；才能を完璧に備えた詩人の著述した複雑な構造と体系、そして意味内容を合わせ持つ詩を、朗読者はどのようにして正しく朗読するのか？ 朗読してそこから何を発見し知覚するのか？ などの事項は、詩の研究の重要な問題の一つである。詩の朗読者が〔聴取者に〕どのような影響を及ぼし、どのような関係が成立するのかを詳細に取り上げて研究することも、モンゴル詩研究の一つの重要な問題である。

詩の理論的思潮が強力に発展したいくつかの外国における詩の研究では、詩人、詩、朗読者の三つの関係をどのように取り上げて研究しているのかということ、モンゴル詩研究にも応用し、モンゴルの思潮、生活、文化、風俗習慣の観点から総合的な問題として取り上げ、統合された一つの問題を案出することが、この発表の目的である。